

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第三主日礼拝のしおり

2022年6月26日

前奏

招きのことば：詩編 30 編 5-6, 12-13 節

主の慈しみに生きる人々よ。主に賛美の歌をうたい 聖なる御名を唱え、感謝をささげよ。
ひととき、お怒りになっても 命を得させることを御旨としてくださる。
泣きながら夜を過ごす人にも 喜びの歌と共に朝を迎えさせてくださる。|
あなたはわたしの嘆きを踊りに変え 粗布を脱がせ、喜びを帯としてくださいました。
わたしの魂があなたをほめ歌い 沈黙することのないようにしてくださいました。
わたしの神、主よ とこしえにあなたに感謝をささげます。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまわり、
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

イエス様は誰にも理解されずに、ひとり十字架への苦しみの道を歩まれました。そのとき、イエス様の歩みを理解するものはおらず、また、イエス様に覚悟をもってすぐに従う者もいませんでした。イエス様は十字架の上で私たちに罪の赦しを与え、私たちがイエス様のように隣人のために命がけの愛をもってお仕えする生きがいのように生きるように招いてくださっています。愛する主よ、どうぞ私たちに、あなたの招きに感謝をもって素直に従う心をお与えください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、まだ緊張感を保たなければなりません。その中でも すべて御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ガラテヤの信徒への手紙5章 1、13-25 節

この自由を得させるために、キリストはわたしたちを自由の身にしてくださったのです。だから、しっかりしなさい。奴隷の軛に二度とつながれてはなりません。| 兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。だが、互いにかみ合い、共食いしているのなら、互いに滅ぼされないように注意しなさい。わたしが言いたいのは、こういうことです。霊の導きに従って歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。肉の望むところは、霊に反し、霊の望むところは、肉に反するからです。肉と霊とが対立し合っているのです。あなたがたは、自分のしたいと思うことができないのです。しかし、霊に導かれているのなら、あなたがたは、律法の下にはいません。肉の業は明らかです。それは、姦淫、わいせつ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのものです。以前言っておいたように、ここでも前もって言いますが、このようなことを行なう者は、神の国を受け継ぐことはできません。これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。キリスト・イエスのものとなった人たちは、肉を欲情や欲望もろとも十字架につけてしまったのです。わたしたちは、霊の導きに従って生きているなら、霊の導きに従ってまた前進しましょう。

福音書朗読：ルカによる福音書 9章 51-62 節

イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた。そして、先に使いの者を出された。彼らは行って、イエスのために準備しようと、サマリア人の村に入

った。しかし、村人はイエスを歓迎しなかった。イエスがエルサレムを目指して進んでおられたからである。弟子のヤコブとヨハネはそれを見て、「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」と言った。イエスは振り向いて二人を戒められた。そして、一行は別の村に行った。一行が道を進んで行くと、イエスに対して、「あなたがおいでになる所なら、どこへでも従って参ります」と言う人がいた。イエスは言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない。」そして別の人に、「わたしに従いなさい」と言われたが、その人は、「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」と言った。イエスは言われた。「死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。あなたは行って、神の国を言い広めなさい。」また、別の人も言った。「主よ、あなたに従います。しかし、まず家族にいとまごいに行かせてください。」イエスはその人に、「鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない」と言われた。

讚美歌 298 番

- 1 やすかれ、わがこころよ、主イエスはともにいます。
痛みも苦しきをも おおしく忍び耐えよ。主イエスのともにませば、たええぬ悩みはなし。
- 2 やすかれ、わがこころよ、なみかぜ猛るときも、父なるあまつ神の みむねに委ねまつれ。
み手もて導きたもう 望み岸は近し。
- 3 やすかれ、わがこころよ、月日のうつろいなき み国はやがてきたらん。
うれいは永久に消えて、かがやくみ顔あおぐ いのちのさちをぞ受けん。 **アーメン**

説教：「従います、しかし」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

どうして聖書が書かれたのか、どうしてルカの福音書が書かれたのか、というと、それは私たちがイエス様に向き直るためです。つまり、今までの歩みをやめて悔い改めてイエス様を信頼するためです。そこに罪の赦しがあるからです。そしてルカによる福音書は私たちがイエス様に向き直った者として、悔い改めの実を結んで歩むことを励ましています。聖霊は私たちにイエス様がしてくださったことを言い広める生きがいを与えてくださいます。

今日開かれた聖書の箇所では、イエス様がエルサレムに向かう決意を固められた、と記されています。せっかくですからルカによる福音書が大きく三つの部分に区分されることをお知らせください。今日の箇所はちょうど第二の部分の始まりです。

第一の部分には、イエス様が民を救う救い主としてお生まれになってからバプテスマのヨハネによって洗礼を受けて公けのお働きを始められ、集めた弟子たちと共に旅をして、教えたり、いやしたりしながら、人々を罪の赦しを得させる悔い改めに導かれたことが記されています。

弟子たちがイエス様のことを神様から遣わされた救い主、メシアであると告白をしたときから、イエス様はご自分がエルサレムで苦しめられて殺され、三日目によみがえることを弟子たちに予告しました。そして遂に、姿変わりの山の上で、このあとイエス様がエルサレムで逃げようとなさっている最期のみわざについてお話になりました。これが第一の部分です。第一の部分でイエス様は、悔い改めて救い主を信じて罪の赦しを得るように人々を導いてくださいました。

今日お読みした個所からはじまる第二の部分では、エルサレムに向かって歩まれるイエス様のお働きが記されています。エルサレムへの途上であることが13章22節や17章11節で確認されながら、19章28節でいよいよろばの子にのってエルサレムに入られるまでの長い部分がこの第二の部分です。エルサレムに向かう道では、イエス様はなぜエルサレムに行かれるのかをお話になりました。イエス様はご自分が人々の罪が赦されるためにエルサレムで苦しめられて十字架で殺され、そして三日目によみがえるのです。そして、イエス様を信じて歩む者も自分の十字架を背負って従ってくるように励まされました。悔い改めてイエス様を救い主として信じ罪赦された者は、イエス様に向きをかけて自分の十字架を背負って歩み続けます。途上では人々の反対を受けることもあります。また自分のいろいろな事情があってイエス様に従っていくことが困難なときもあります。9章23節で、わたしについてきたいと思うなら自分を捨て、日々十字架を背負ってわたしにしたがいなさい。自分の命を救いたいと思うものはそれを失うが、わたしのために命を失うものはそれを救う、と言われました。お弟子たちはこれまでの歩みを方向転換してイエス様に向きを変えたことにふさわしい実を結び、困難があっても多くの人にイエス様からしていただいたことを告げ知らせ、罪を赦された者としての歩み続けました。イエス様は、ファリサイ派の人や律法の専門家という人々とも対話を繰り返しました。彼らはかつて罪の赦しという神様の贈り物を拒んでバプテスマのヨハネから悔い改めの洗礼を受けなかったのです。しかしイエス様は放蕩息子のお兄さんのたとえにあるように彼らの言い分をよく聞いてお答えになって歩まれました。

そしていよいよ19章でエルサレムに入られたイエス様は、私たちの罪のために十字架につけられて殺されました。十字架と一緒につけられていた強盗のひとりとはそれまでの罪深い歩みから方向をかえてイエス様に向き直り、イエス様が天国の御座につかれるときに自分を思い出してください、と悔い改めました。イエス様は彼に、その日一緒に天国にいるようになることを厳かに宣言されました。そして三日目によみがえりました。弟子たちを集めて、約束を与えてくださいました。これからすべての民にイエス様のことを宣べ伝えるための力、罪の赦しを得させる悔い改めを伝えるための聖霊の力をお与えになることを約束されました。

このように、ルカによる福音書は私たちに罪の赦しを得させる悔い改めについて語っています。イエス様は私たちが罪を赦すためにエルサレムで十字架にかかって死んでくださいました。そして信じて罪を赦された者たちに復活のいのちを聖霊によって与えてくださって、困難があってもその中で自分の十字架を背負って歩む力を与えて、そのようにして罪の赦しを得させる悔い改めがイエス様の権威によってあらゆる国に宣べ伝えられるのです。

さて、イエス様はエルサレムに向かって、南の方向に進路を定められて歩み始められました。エルサレムに行くまでにはサマリヤという地方をとおります。サマリヤはかつて、信仰の妥協をして周辺に住んでいた民と結婚をして純粋さを失ってしまい、エルサレムではなく自分たちの町に神殿をつくった民です。サマリヤの人々はイエス様を歓迎しませんでした。それで腹をたてたヤコブとヨハネと言う二人の弟子はイエス様に進言しました。イエス様も預言者のようなお方ですから、かつて預言者エリヤが自分をとらえに来た兵士たちにしたように、天から火をふらせましょうか、と言いました。イエス様は二人を戒めて次の村へ進みました。エルサレムへの道は十字架への道です。人々が悔い改めてイエス様を信じて罪の赦しを得ることができるようになるための十字架です。すべての人に歓迎されることはありません。困難な道です。イエス様は十字架への道を歩み切ることで、人々がイエス様の方に向きをかえることを望んでおられます。

道を進むと、イエス様に近づいてくる人々がいました。イエス様は、自分の十字架を背負って従ってくるようにと教えられました。初めて出会った人はあまり考えないでうれしくなってイエス様にどこへでも従っていきます、と言いました。イエス様は、狐には夜に帰って行く穴があり、空の鳥にも帰るべき巣があるけれど、私についてきても枕する場所はないことを知っていますか、と覚悟を問いただしておられます。罪の赦しを得た者はその実を結んで、自分の十字架を背負って歩みます。そこには困難があることを知っていますか、と問うておられます。

また、もう一人の人にはイエス様からお声をかけられました。私に従ってきなさい、と言われました。すると、その人はまずお父さんを葬りに行かせてください、と言いました。当時の考えでは父親の葬儀をきちんとすることは人として何よりも大切な義務でした。しかし、イエス様に従うということは、自分の十字架を背負って歩むということ教えておられます。そこには困難があることを知っていますか、と問うておられます。イエス様の方に向きを変えて歩むことは、他の様々なことに優先してイエス様に体を向けて歩むことです。その覚悟がありますか。

イエス様は鋤(すき)に手をかけてから後ろを振り向くものは神の国にふさわしくない、と言われます。鋤は畑をたがやすための道具ですね。牛やロバに引かせて土をたがやします。右手にムチのようなものを持って家畜を促し、鋤は左手だけで操作するものでした。ですから、まっすぐ進むためにはまっすぐに前を見て進まなければなりません。後ろを振り返ると、たちまち曲がった畝がまがってしまいます。エルサレムに向かって歩まれるイエス様は、ご自分のいのちをかけて人々の罪の赦しのために歩まれました。イエス様に向きを変えて歩む者は、このイエス様に従っていきます。

私たちは、自分中心でわがままに歩んできました。そして、色々な考え方や原理原則に支配されていました。人々の圧力や影響にも振り回されてきました。イエス様の方を向かないで、きょうきょうと周りを見回しながら、だれからものけ者にされたり排斥されたりしないように、自分の権利を奪われないように自分を守って生きてきました。心細く、心配しながら注意しな

がら、歩んできました。人々の自分中心、私たちの自分中心の微妙なバランスの中で生きてきました。しっかりとエルサレムに向かって歩みを定められたイエス様は、そんな私たちの罪を赦して、神様の子どもにしてくださいました。これまでの歩みから解き放ってください、イエス様だけを見て歩むことができるように自由な命を与えてくださいました。そんな私たちは、これまでの歩みとは違う優先順位をもって、人々とは違う価値観で、ほんとうの豊かな命を実を結んで歩みます。

あなたは覚悟ができていますか。私たちには困難がありますが、自分の十字架を背負って歩みます。それが神の国を歩むことです。人々に復讐することではありません。自分の権利を守ることはありません。今朝も素直にイエス様に向き直り、罪の赦しをいただいて、イエス様が私たちにくださったことを言い広めて歩んでいきましょう。自分中心の歩みを離れて、覚悟をもって自分を磨き、隣人のために役立って、一緒に幸せをつくってまいりましょう。私たちの罪を赦すためにエルサレムに向かって歩みを進められたイエス様が、自分中心な思いから私たちを救い出してくださいました。感謝をもって歩みましょう。後ろを振り返らず、イエス様を見上げて歩んでまいりましょう。

イエスはその人に、「鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない」と言われた。 ルカによる福音書9章62節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

讃美歌 338 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 主よ、終わりまで仕えまつらん、みそば離れず おらせたまえ、
世の戦いは 激しくとも、御旗のもとに おらせたまえ
- 2 うき世の栄え 目をまどわし、いざないの声 耳にみちて、
試むる者 内外(うちと)にあり、主よ、わが盾と ならせたまえ
- 3 静かにきよき み声をもて 名利のあらし しずめたまえ、
心に騒ぐ 波はなぎて、わが主のみむね さやに写さん
- 4 主よ、今ここに ちかいを立て、しもべとなりて つかえまつる
世にある限り この心を つねにかかわらず もたせたまえ アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出されたまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわに耐えせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏